

乳房再建とは

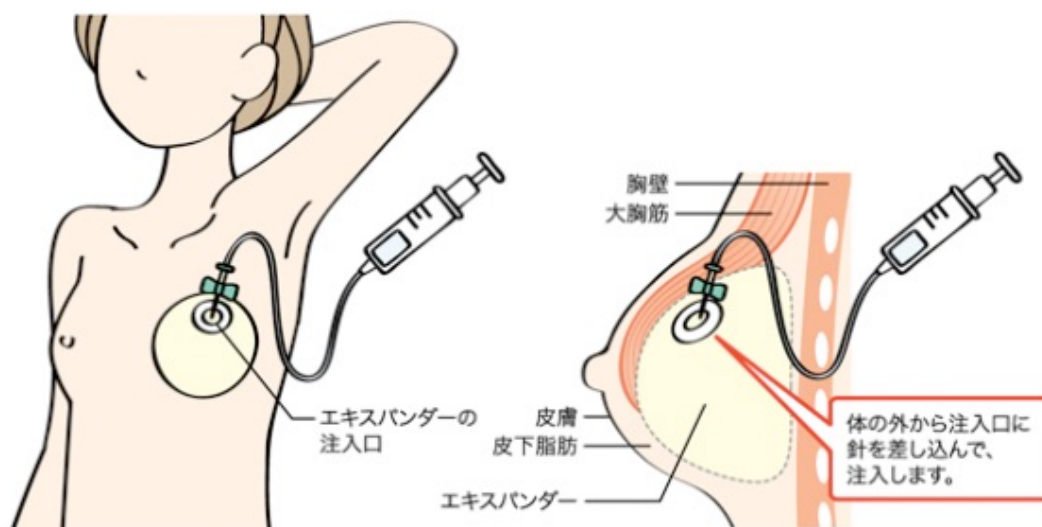
乳がんの治療によって失われた乳房の形態を、元の形に近づける手術です。女性にとって乳房とは大切なものです。乳がんの治療だけでなく乳房の形を再建することで「女性らしさ」を取り戻すことができます。

当科では失った乳房を再建する最新の医療を提供することができます。

乳房再建の時期について

乳がん手術と同時に行う方法（一次再建）

乳がんの切除と同時に再建を行う方法です。組織拡張器（エキスパンダー）というシリコン製の水風船のような医療器具を入れておき、数ヶ月かけて膨らませた後に、インプラントか自家組織で再建します。



(アラガン乳房再建ナビ <http://nyubo-saiken.com> より引用)

乳がんの治療が完了してから行う方法（二次再建）

乳がんの治療が完了してからも、乳腺外科の診察で問題がなければ乳房再建は後からでも可能です。インプラントを用いた再建と自家組織を用いた再建があります。

以前に乳がんの治療のみ行った方で再建を行っていない患者さんや、乳がん

の治療上、一次再建をできなかった患者さんも、乳房の形を取り戻したいという方は遠慮なく一度当科へご相談ください。最善の乳房再建方法を提供させていただきます。

乳房再建の方法について

乳房のふくらみを再建する方法は大きく分けて、自家組織(自分の皮膚や脂肪)を使って再建する方法と、人工物(シリコンインプラント)を用いて再建する方法があります。

①自家組織（自分の皮膚・脂肪）を用いる方法

患者さん自身の皮膚や皮下脂肪を胸に移動してふくらみを作る方法です。自分の組織を使い、血流もあるため、柔らかく温かみのある乳房を再建することができます。

また、インプラントのような破損の心配がありません。またインプラントでは再現できない胸元や腋の下近くの厚み、下垂した乳房などより自然な形態を再建することができます。

一方で、体の他の部分から組織を移動するため手術時間や入院期間が長くなります。

具体的な方法として当科では以下の穿通枝皮弁法を多く行っております。

●穿通枝皮弁法

自家組織による乳房再建方法の中でも当科が主に行っている手術で、より自然な大きさと柔らかさの乳房を再建できます。

従来の組織移植では筋肉を犠牲にして移植を行うためドナー（移植する組織の採取部）側の負担が大きいです。穿通枝皮弁法では筋肉を犠牲にすることなく脂肪や皮膚を移植するため、より負担が少なく術後の回復も早いです。

移植する組織としては下腹部やお尻、太ももの内側など取った後の傷が目立た

ない部位を用います。どこを用いるかはご本人の体型や希望に合わせてご相談いたします。

②シリコンインプラント（人工乳房）を用いる方法

組織拡張器(エキスパンダー)を用いて皮膚を膨らませたのち、シリコンインプラントを挿入する方法です。

乳がん手術の傷を利用して行うため、乳房以外の他の部分に傷がつきません。入院期間が短く、通常の生活や、仕事に早く復帰できるなどの利点があります。

しかし、人工物なので、劣化により破れる可能性や、変形を生じる可能性があります。このような場合や、感染を生じた場合などには、人工乳房の入れ替えなど再手術を行う必要があります。

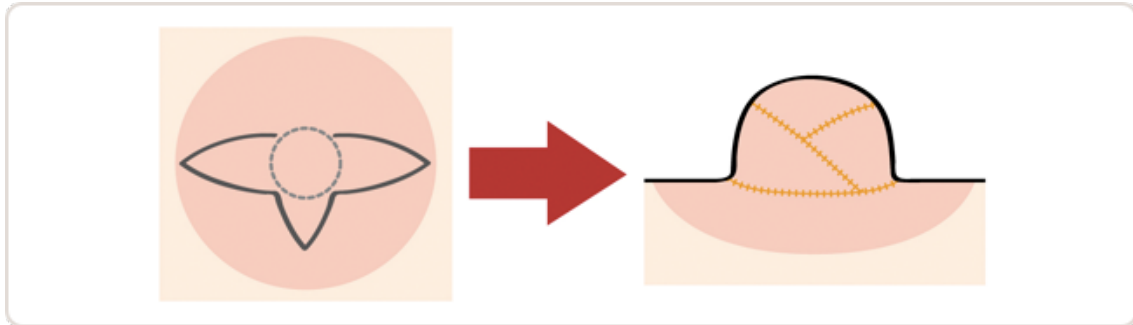


(アラガン乳房再建ナビ <http://nyubo-saiken.com> より引用)

乳頭・乳輪再建について

乳房の膨らみだけでなく乳頭や乳輪も再建することができます。

乳頭を作る方法には再建した乳房の皮膚を一部切って組み立てる方法や反対側の乳頭の一部を移植する方法があります。希望があれば局所麻酔で行うことが可能です。



(アラガン乳房再建ナビ <http://nyubo-saiken.com> より引用)

乳輪を作る方法には、皮膚移植により再建する方法や、シリコン製の人工乳輪乳頭を貼る方法などもあります。

おわりに

以上のように、乳房再建には様々な方法があります。どの方法が良いかは患者さんの状況や価値観、希望によって異なります。患者さんごとに最も適した方法を提供いたしますので、どうぞお気軽に担当医にご相談ください。